

有清園

「宸殿」本堂は、砂利道を散歩するのが一番の楽しみ方である伝統的な庭園である有清園を見渡す位置にあります。

庭園の名前は、「山水清音有り」と書いた、中国の西晋王朝の詩人、左思の詩に由来しています。

大部分を厚い苔で覆われた地面に、杉の木ともみじの木が点在しており、葉が秋の色を帯びるときに最も賞賛されます。

986年に建てられた往生極楽院を囲む庭園は、池と一体化した大きな景観が特徴です。室町時代（1336-1573）に造園作業が開始された時にも、最近では2019年に完了したばかりの修復作業が行われたときにも、池が焦点であったと考えられています池にはいくつかの小島があり、それらが石の橋で庭につながっています。滝が丘の中腹から後方に流れ落ちています。

有清園および隣接する聚碧園の設計者は不明ですが、江戸時代（1603-1868）に茶人である金森宗和の指導のもと、改修されました。

木々や植物は印象的（特に秋には）ですが、庭園は、その流れ、デザイン、岩や水などの素材の使い方を鑑賞すべきです。庭の基礎が敷かれてからおよそ600年の間、植物の生活は完全に変わっています。しかし、庭の形は、設計者に忠実であり続けています。